

自己評価報告書
2020年度

2021年4月

学校法人 読売理工学院

専門学校 読売自動車大学校

目 次

はじめに	2
1. 学校の教育目標	
2. 本年度に定めた重点的に取り組むことが必要な目標や計画	3
3. 評価項目の達成及び取組状況	
(1) 教育理念・目標	4
(2) 学校運営	
(3) 教育活動	
(4) 学修成果	
(5) 学生支援	
(6) 教育環境	
(7) 学生の受入れ募集	
(8) 財務	
(9) 法令等の遵守	
(10) 社会貢献・地域貢献	
(11) 国際交流	
4. 学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果	18

別 冊 資 料

1. 学科教育目標
2. 科目の教育目標・授業計画
3. 学生対象授業アンケート集計結果
4. 学生便覧（履修要項）
5. 学校案内
6. 募集要項

はじめに

教育機関である専門学校は、在学生在がよりよい教育を受けることができるよう、学校運営・教育活動等について常に改善を図り、教育の質の向上に努める責任がある。また、学校運営・教育活動等の学校情報を公表し、学生・保護者をはじめとする学校関係者に対し、説明責任を果たすことが求められている。

2007年6月の学校教育法改正に伴う「学校評価に関わる学校教育法施行規則等の一部を改正する省令」の公布により、専門学校における自己評価と結果の公表が専修学校設置基準上の義務となり、学校関係者評価の実施と結果の公表が努力義務となった。

2004年度より本校独自の評価項目を設定し実施してきたが、2014年度に本校が「職業実践専門課程」の認定を受けたことを機に、文部科学省のガイドラインに基づいた自己評価の様式に沿ってまとめることとした。

「学校関係者評価」を今後も実施することで学校運営の改善に努めるが、さらなる教育の質の向上に向けて「第三者評価」についても前向きに検討する必要があると考える。

1. 学校の教育目標

本学院の理念・目的は学院設立趣意書に「時代の要請に奉仕するためには、大学と工業高校の間を行く徹底した実技教育を目的とする。」(1969年11月20日)と定めている通り、職業に特化した高等教育機関を目指し、読売新聞社が設立した。

本校では充実した職業教育を実施することはもとより、人間性の成長を促すことにより社会で貢献できる人材を育成する全人教育も重要な目的とし、学校運営・教育活動等について改善を常に心がけ、教育の質の向上に継続的に努めることが目標と決意する。

「自己点検評価」(2004年度より開始)や「学校関係者評価」(2014年度より実施)は、こうした決意に基づき行っているもので、今後も「学校関係者評価」により学校運営の改善に努めるが、「教育課程編成委員会」を通し実践的な教育内容と人間力の向上を目指し継続的に取り組む。

これと並行して「読売式教育メソッド」を制定し、学生の「人間力」「専門力」「資格取得力」「就職力」「基礎学力」をさらに向上させるために改善を進めているが、教員の教育力・人間力の向上も不可欠である。教育力向上を実現するためには、現状の教育内容の客観的な評価が欠かせず、今後は「第三者評価」に対する前向きな取り組みが必要と考えている。

2. 本年度に定めた重点的に取り組むことが必要な目標や計画

卒業生が、「最高の教育を受けることができた」と思えるよう、「人間性の成長」と「技術・知識のレベル・アップ」を実感できる教育を目標としている。その実現には、教科書に縛られず、より学生に興味を喚起する授業内容を目指し、教育手法の継続的な工夫と、教員の教育力の向上を継続的に迫及する取り組みが重要となる。

自動車の技術的進化は、近年ますます速度を増している。教育内容を技術進化に対応したものとするためには、学外、学外を問わず教員の技術研修をより積極的に実施することで、現在の整備体制や企業が求める人材像を具体的に把握するなどの対応が必要であり、継続的な課題である。

また、研修等で教員が理解した新技術を授業内容に反映する場合は、理解しやすく興味を持たせる授業内容を工夫しなければならない。そのため、教員は新技術の裏付けとなる基礎工学等の理解度を向上させることも今後検討する必要がある。

「教員は自動車エンジニアの先輩として、後輩である学生を大切に育てる」という校風を大切に、教育を行う過程に力点を置き、理解しやすく興味を持たせる授業内容を実施するために、継続的な努力を惜しまない。「わかり易い授業を工夫する」ことは、学生の学習意欲を励起し、授業を通して学生の人間性の向上にも寄与し、さらには学生の定着率向上にも大きな力を持つ重要な取り組みである。

卒業率、国家試験合格率を教育成果ととらえ、学生に対する責務とする視点も忘れない。

3. 評価項目の達成及び取組状況

各評価項目に対する評価責任者は、次の通りである。

- (1) 教育理念・目標： 校長
- (2) 学校運営： 本部長
- (3) 教育活動： 両学科長
- (4) 学修成果： 両学科長・就職委員長
- (5) 学生支援： 両学科長
- (6) 教育環境： 教務委員長
- (7) 学生の受入れ募集： 広報委員長
- (8) 財務： 本部長
- (9) 法令等の遵守： 本部長
- (10) 社会貢献・地域貢献： 学生委員長
- (11) 国際交流： 事務局長

3. 評価項目の達成及び取組状況

(1) 教育理念・目標 3.8 (←3.7←3.4←3.6←3.6←3.6)

評価項目	適切… 4、ほぼ適切… 3、 やや不適切… 2、不適切… 1			
・学校における職業教育の特色はなにか	④	3	2	1
・社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか	④	3	2	1
・学校の理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などが学生・保護者等に周知されているか	4	③	2	1
・各学科の教育目標、育成人材像は、学科等に対応する業界ニーズに向けて方向づけられているか	④	3	2	1

① 課題

「読売式教育メソッド」に設定した教育目標（目標とする学生像）をより具体的に明確化し、カリキュラムに落とし込む必要がある。この作業を行うことで教育成果を明確に評価することが可能となる。

自動車整備士教育が特色ある職業教育そのものであるが、自動車技術と整備技術の急速な進歩により、今後自動車整備事業に質の変化が起こっている。今後の整備事業の変化に対応した整備士教育を取り入れることが求められており、企業との教育連携をさらに充実させ、教育内容の見直しに取り組むこととする。

② 今後の改善方策

カリキュラム編成の検討段階では、新技術を取り入れた教育内容に重点が置かれることになるが、これと並行して、基礎工学的な教育をより充実させ理解力と応用力を養成することが1級整備学科に必要である。1級課程だけでなく、自動車整備学科の学生に対しても、お客様対応の能力を企業は求めている。ビジネスマナーなどの授業を通して、社会人として通用するコミュニケーション能力を養成することを検討する。

業界で求められる人材を育成する姿勢の維持が重要であり、育成人材像の明確化がカリキュラム作成の上でも必要である。今後は、二級課程1・2年次の育成人材像と一級課程3・4年次の育成人材像を明確にし、2年次修了までと4年次修了までに身に付けるべき能力「～ができる」を明確にし、確実な能力のステップアップに向けた教育を工夫する。すなわち、二級課程で求められる整備士としての基礎能力・技術と、一級課程で必要な総合的な応用能力・技術を確実に身に付けた人材を育成する体制とする。現状に即した職業教育を行うために、教育における企業連携を継続的に実施する。

③ 特記事項

教育課程編成委員会での検討に基づき、一級整備学科では、企業連携授業の一環としてBMW(株)の協力を得て、ボデーの構造、最新素材、そのリペア方法、最新技術等の授業を展開した。また各自動車メーカー系ディーラの協力を得て新技術、メーカー独自の技術講習も行った。今後も1級整備学科、自動車整備学科ともに企業連携授業の導入を積極的に実施する必要がある。

2) 学校運営 3.8 (←3.8←3.8←3.5←3.5←3.5)

評価項目	適切… 4、ほぼ適切… 3、 やや不適切… 2、不適切… 1			
・目標等に沿った運営方針が策定されているか	④	3	2	1
・運営方針に沿った事業計画が策定されているか	④	3	2	1
・運営組織や意志決定機能は、規則等において明確化されているか、有効に機能しているか	④	3	2	1
・人事、給与に関する規程等は整備されているか	④	3	2	1
・教務・財務等の組織整備など意志決定システムは整備されているか	4	③	2	1
・業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか	④	3	2	1
・教育活動等に関する情報公開が適切になされているか	④	3	2	1
・情報システム化等による業務の効率化が図られているか	4	③	2	1

① 課題

18歳人口の減少に高校生の車離れも加わって日本人の入学者が減少し、留学生も伸び悩む中で、学生の確保が各校共通の課題となっている。日本人、留学生を問わず、就職率や国家試験の合格率の高さを誇る本校としては、伝統校としての強みを生かして、わかりやすい授業、就職指導を心掛けており、学生や保護者に多面的にアピールしていきたい。

② 今後の改善方策

留学生の在籍管理が厳しくなる中で、学院が定めた「留学生指導指針」をさらに充実させ、目指すべき人材像を求めていく。そのために、数値目標等を定めて、留学生相談室とも連携しながら達成に向けて取り組んでいく。

③ 特記事項

特になし。

(3) 教育活動 1級整備学科 3.7 (←3.7←3.6←3.6←3.6←3.5)

評価項目	適切… 4、ほぼ適切… 3、 やや不適切… 2、不適切… 1			
・教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか	④	3	2	1
・教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた学科の修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか	④	3	2	1
・学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか	④	3	2	1
・キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか	4	③	2	1
・関連分野の企業・関係施設等や業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか	④	3	2	1
・関連分野における実践的な職業教育（産学連携によるインターンシップ、実技・実習等）が体系的に位置付けられているか	④	3	2	1
・授業評価の実施・評価体制はあるか	④	3	2	1
・職業教育に対する外部関係者からの評価を取り入れているか	④	3	2	1
・成績評価・単位認定、進級・卒業判定の基準は明確になっているか	④	3	2	1
・資格取得等に関する指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置付けはあるか	④	3	2	1
・人材育成目標の達成に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか	④	3	2	1
・関連分野における業界等との連携において優れた教員（本務・兼務含む）を確保するなどマネジメントが行われているか	4	③	2	1
・関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組が行われているか	4	③	2	1
・職員の能力開発のための研修等が行われているか	4	③	2	1

① 課題

1級担当教員は全員1級整備士資格取得者であるが、今後、自動車整備学科の教員が1級の担当となるためには、1級整備士資格の取得が必須となるが、教員の資格取得がなかなか難しい状況である。

② 今後の改善方策

昨年度末の試験で、1名合格した先生もいることから、教員の意識向上を進めて次年度以降資格修得に向けてサポートをしていく。

③ 特記事項

特になし

3) 教育活動 自動車整備学科 3.6 (←3.5←3.4←3.4←3.4←3.3)

評価項目	適切… 4、ほぼ適切… 3、 やや不適切… 2、不適切… 1			
・教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか	④	3	2	1
・教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた学科の修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか	④	3	2	1
・学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか	④	3	2	1
・キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか	④	3	2	1
・関連分野の企業・関係施設等や業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか	4	③	2	1
・関連分野における実践的な職業教育（産学連携によるインターンシップ、実技・実習等）が体系的に位置付けられているか	4	③	2	1
・授業評価の実施・評価体制はあるか	④	3	2	1
・職業教育に対する外部関係者からの評価を取り入れているか	④	3	2	1
・成績評価・単位認定、進級・卒業判定の基準は明確になっているか	④	3	2	1
・資格取得等に関する指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置付けはあるか	④	3	2	1
・人材育成目標の達成に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか	4	③	2	1
・関連分野における業界等との連携において優れた教員（本務・兼務含む）を確保するなどマネジメントが行われているか	4	③	2	1
・関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組が行われているか	4	③	2	1
・職員の能力開発のための研修等が行われているか	4	③	2	1

① 課題

職員の能力開発のための研修等に関して、学生向けの企業研修会に、教職員も参加させていただくことで研修機会が増加した。ただし、昨今の新型コロナウイルス対応のため、学生向け研修も十分に増やせていない。

② 今後の改善方策

学生向けの企業研修会を増やした上で、教職員も積極的に参加させていただく。夏季など学生の長期休暇に合わせて、校内で研修会を実施するなど対策が必要。

③ 特記事項

キャリア教育の一環として、ビジネス・マナーをカリキュラムに取り入れている。

(4) 学修成果 1級整備学科 3.6 (←3.0←3.0←3.2←3.0←3.0)

評価項目	適切… 4、ほぼ適切… 3、 やや不適切… 2、不適切… 1			
・就職率の向上が図られているか	④	3	2	1
・資格取得率の向上が図られているか	④	3	2	1
・退学率の低減が図られているか	④	3	2	1
・卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	4	③	2	1
・卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか	4	③	2	1

① 課題

前年の反省を踏まえて、国家試験対策を行った結果、今年度は、筆記、口述ともに全員合格となった。二種電気工事士試験も4年生は約80%の合格で、進級率も100%であった。
しかし、3年生の二種電気工事士試験は、例年よりは高いものの70%の合格率にとどまり、進級率も成績不良による退学者が出てしまったため芳しくない結果となった。

② 今後の改善方策

国家試験については、今年度のノウハウを生かし、早期対策の実施、過去問題の網羅等、昨年度方針を継続して実施していく。コロナ禍での授業形態で得た遠隔授業も取り入れた試験対策を実施していく。

③ 特記事項

特になし

(4) 学修成果 自動車整備学科 3.2 (←3.0←3.0←3.0←3.0←2.6)

評価項目	適切… 4、ほぼ適切… 3、 やや不適切… 2、不適切… 1			
・就職率の向上が図られているか	④	3	2	1
・資格取得率の向上が図られているか	④	3	2	1
・退学率の低減が図られているか	4	③	2	1
・卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	4	3	②	1
・卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか	4	③	2	1

① 課題

退学率の低減は努力しているものの、学生が多様化していることに十分に対応できていない。

留学生の増加により、資格外活動に関する指導の強化と日本語能力試験、運転免許などを早期に合格させて、就職率を維持する活動が必要となる。また、内定者の内定辞退などが発生しないよう、意識を低下させない学生指導も今まで以上に必要となる。

② 今後の改善方策

基礎学力の低い学生に対するフォローに力を入れるとともに、留学生の日本語能力の向上と、生活指導を留学生相談室、日本語担当教員と連携してさらに強化する。

③ 特記事項

特になし

(5) 学生支援 1級整備学科 3.0 (←3.1←3.1←3.1←3.3←3.4)

評価項目	適切… 4、ほぼ適切… 3、 やや不適切… 2、不適切… 1			
・進路・就職に関する支援体制は整備されているか	④	3	2	1
・学生相談に関する体制は整備されているか	④	3	2	1
・学生に対する経済的な支援体制は整備されているか	④	3	2	1
・学生の健康管理を担う組織体制はあるか	4	③	2	1
・課外活動に対する支援体制は整備されているか	4	3	②	1
・学生の生活環境への支援は行われているか	4	③	2	1
・保護者と適切に連携しているか	4	③	2	1
・卒業生への支援体制はあるか	4	3	②	1
・社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか	4	③	2	1
・高校・高等専修学校との連携によるキャリア教育・職業教育の取組が行われているか	4	3	②	1

① 課題

課外活動の機会がかなり少なくなっています。コロナ禍であることを考慮しても、イベントが少なくなっています。

② 今後の改善方策

外部から見た魅力の一つとして、課外活動のアピールは重要と思われるので、新型コロナウイルス感染の終息とともに積極的に課外活動にも力を入れていきたい。

③ 特記事項

特になし

(5) 学生支援 自動車整備学科 3.3 (←3.3←3.3←3.3←3.4←3.3)

評価項目	適切… 4、ほぼ適切… 3、 やや不適切… 2、不適切… 1			
・進路・就職に関する支援体制は整備されているか	④	3	2	1
・学生相談に関する体制は整備されているか	④	3	2	1
・学生に対する経済的な支援体制は整備されているか	④	3	2	1
・学生の健康管理を担う組織体制はあるか	4	③	2	1
・課外活動に対する支援体制は整備されているか	4	③	2	1
・学生の生活環境への支援は行われているか	4	③	2	1
・保護者と適切に連携しているか	④	3	2	1
・卒業生への支援体制はあるか	4	③	2	1
・社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか	4	③	2	1
・高校・高等専修学校との連携によるキャリア教育・職業教育の取組が行われているか	4	3	②	1

① 課題

高校・高等専修学校との連携によるキャリア教育・職業教育の取組が行われているかという点は、実行できていない。

② 今後の改善方策

工業高校とりわけ自動車整備関連の学科を設けている高校が減少する状況で、高校・高等専修学校との連携は困難であると思う。むしろ小中学生に向けた、自動車整備士に関する職業理解を得るような、体験授業などを模索すべきではないか。

③ 特記事項

特になし

(6) 教育環境 3.7 (←3.7←3.7←3.7←3.7←3.7)

評価項目	適切… 4、ほぼ適切… 3、 やや不適切… 2、不適切… 1			
・施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか	4	③	2	1
・学内外の実習施設、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか	④	3	2	1
・防災に対する体制は整備されているか	④	3	2	1

① 課題

<ul style="list-style-type: none"> ・設備、教材の老朽化 ・実習スペースの不足
--

② 今後の改善方策

<ul style="list-style-type: none"> ・優先順位を付け設備・教材の改善を実施 (設備等：オンライン授業用タブレット PC の追加、オンライン用書画カメラの追加、ベンチエンジン用バッテリー充電器の追加、エアホース・リールの交換、車両リフトの保守管理点検・メンテナンス、電気工事士用工具の追加、共用工具箱の追加) (教材等：エンジン脱着用車両、車体電装故障診断用車両の追加、単体エンジンの交換、ベンチエンジンの修理) ・スペースの有効利用のため、定期的な不要品の廃棄、外部倉庫の利用、同時に実施する実習内容の検討。

③ 特記事項

--

(7) 学生の受入れ募集 2.7 (←2.3←3.3←3.3←3.3←3.7)

評価項目	適切… 4、ほぼ適切… 3、 やや不適切… 2、不適切… 1			
・学生募集は、適性に行われているか	4	3	②	1
・学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか	4	③	2	1
・学納金は妥当なものとなっているか	4	③	2	1

① 課題

昨年から情報発信の重点を SNS に切り替え、一定数の成果が確認できた。しかし従来のパンフレットを使用した紙媒体の影響も依然強いため、並行して検討する必要がある。

ネットで取得できる情報の価値が低下し（変化スピードが上がり、共有化が進んだことで）、現実で得られる情報（経験）の価値がさらに高まりました。

OC において他校では既に、1 日体験実習（昼食付 1 日実習）を実施しており、本校では半日体験実習で、本校で提供する情報（経験）では満足しにくくなっていると考えられる。（学内データでも一昨年の 1 日体験の参加率と半日体験の参加率では大きく差がある）昨年段階で予測できた内容だが、スケジュールを含め対応ができていなかった。

進路ガイダンスは回復傾向にあるがまだまだ高校訪問などは難しい状況で、学校や OC の周知方法により一層の工夫が必要である。

② 今後の改善方策

江東区亀戸の本校、知名度が低く（在校生から調査）、地元地域への貢献を検討
現在のネット媒体（Twitter、LINE 等）をさらに拡大し、OC 開催方法を含め改善
資料請求者を OC へ誘導するための具体的な対応検討
実習体験の学生スタッフの対応力強化の為、教員を含めた定期的な研修実施
校内広報の拡充で在校生の満足度を向上し、在校生紹介制度の活用（特に日本人）、情報の発信。

③ 特記事項

--

(8) 財務 3.8 (←3.8←3.8←3.5←3.5←3.5)

評価項目	適切… 4、ほぼ適切… 3、 やや不適切… 2、不適切… 1			
・中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか	4	③	2	1
・予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	④	3	2	1
・財務について会計監査が適性に行われているか	④	3	2	1
・財務情報公開の体制整備はできているか	④	3	2	1

① 課題

読売理工医療福祉専門学校と合わせて、2020年度の入学者も500人を確保したが、今後、コロナ禍の影響もあり学生募集が課題となっている。

② 後の改善方策

学生募集活動への注力のもとより、貸し教室等による事業収入で増収を図り、経営体質の強化を目指す。

③ 特記事項

特になし。

(9) 法令等の遵守 3.8 (←3.8←3.8←3.8←3.8←3.8)

評価項目	適切… 4、ほぼ適切… 3、 やや不適切… 2、不適切… 1			
・法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	④	3	2	1
・個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	4	③	2	1
・自己評価の実施と問題点の改善を行っているか	④	3	2	1
・自己評価結果を公開しているか	④	3	2	1

① 課題

働き方改革の一環として、「同一労働同一賃金」が2021年4月から本校を含む中小企業にも適用されたが、本校において不合理な待遇差がないか教職員対象のチェックを行った。現時点では問題はないと考えているが、課題があれば、労使で改善をはかっていきたい。

② 今後の改善方策

今年4月から70歳までの就業措置努力義務が求められた改正高齢者雇用安定法に対応すべく、就業規則改正などを含め、準備を進めていく。

③ 特記事項

特になし。

(10) 社会貢献・地域社会 3.7 (←3.6←2.7←2.7←2.7←2.7)

評価項目	適切… 4、ほぼ適切… 3、 やや不適切… 2、不適切… 1			
・学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか	④	3	2	1
・学生のボランティア活動を奨励、支援しているか	4	③	2	1
・地域に対する公開講座・教育訓練（公共職業訓練等を含む）の受託等を積極的に実施しているか	④	3	2	1

①課題

<ul style="list-style-type: none"> ・企業連携において資格講習や講座の開講はしているが、地域との連携は不足している。 ・健康増進法改正に伴い、成人学生の喫煙マナーを身に付けさせる必要がある。 ・一教育機関として、地域への貢献ができないか（小学校などへの出前授業等）検討
--

②今後の改善方策

<ul style="list-style-type: none"> ・地域の教育機関として地域へ貢献も検討するが、一部署での活動には限界がある。 ・社会人意識を養うためにも、学校外での部活動、ボランティア活動も積極的に検討する。

① 特記事項

<ul style="list-style-type: none"> ・3月末に広報委員会と協力し、読売オートサロンを開催。近隣の小中学校、地域の掲示板などにポスターを掲示してもらい、近隣の方にも来場していただけた。 ・地域の防犯や安全について、区役所などの公共機関との連携を行い、江東区の「こども110番の家」に登録し、地域活動に積極的に参加。

(1 1) 国際交流（必要に応じて）4.0（←3.8←3.8←3.5←3.3←3.0）

評価項目	適切… 4、ほぼ適切… 3、 やや不適切… 2、不適切… 1			
・留学生の受け入れ・派遣について戦略を持っているか	④	3	2	1
・留学生の受け入れ・派遣、在籍管理等において適切な手続き等がとられているか	④	3	2	1
・留学生の学修・生活指導等について学内に適切な体制が整備されているか	④	3	2	1
・学習成果が国内外で評価される取組を行っているか	④	3	2	1

① 課題

数多くいる留学生の大半は、すぐに帰国しないで日本に残って自動車ディーラーなどで自動車整備士として働くことを希望している。仕事をする上で必要な日本語コミュニケーション能力をさらに高めて実業界に送り出すことが引き続いての課題となる。

② 今後の改善方策

日本語能力試験（JLPT）N1、N2 の合格に向け日本語授業の質の向上をさらに図ると同時に、オーバーワークなどによるビザ更新トラブル防止に向け生活指導を徹底する。

③ 特記事項

勉学意欲が高い優秀な留学生の確保に一層力を入れるとともに、「読売理工学院留学生指導指針」に基づいて学習、生活の両面できめ細かい指導を徹底する。また、就職活動で最大の関門となる日本語力を高めるため、文京校とともに留学生を対象とした「日本語スピーチコンテスト」を新たに立ち上げるほか、留学生支援ルームからの教職員向けの定期通信を留学生たちにもメルマガで情報発信する。

4. 学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

令和2年度は、継続的な目標として、企業連携を通して実践的な実習内容を取入れること、「読売式メソッド」をより具体化しカリキュラムへ落とし込むこと、退学率の改善を目標とし、取り組んできたが、今後も継続して取り組むべき課題である。

二級課程では二級国家試験は日本人学生については基礎学力の低下、留学生については日本語能力の問題、コロナ禍における対面授業の時間の減少（オンライン授業やオンディマンド授業への移行）などあったが、教員・学生双方の努力により2級整備士取得100%を達成できた。一級課程の国家試験結果は、筆記試験、口述試験双方とも100%を達成した。一級整備士、二級整備士両方の合格率100%の達成は、一級、二級2種目の整備士養成校になってから初めてのことである。今後もよい結果が残せるよう、対策授業、授業内容や教育計画についても再検討し、具体的な取組みを実施していきたい。

一級課程においては、実践的な教育内容を目指し、企業に協力いただき新技術に関する実習を積極的に取り入れることができた。ボデー工学では昨年同様企業連携授業の実施することができた。

また、電気を石油に替わるエネルギーととらえ、EV普及と充電インフラ整備が政府の方針となっていることを受け、一級整備士課程のカリキュラムの中に必修教科として「第二種電気工事士」の資格取得のための教育を実施している。近年と比較してかなり高い合格率をあげることができた。今後もさらに合格率を高める効果的な授業体制の確立をしていく必要がある。

二級課程での実習授業では、企業による新技術に関する講習を実施した。学年全員に対する企業実習は学生数が多く困難であり、継続の検討課題であり、職業に特化した教育を実現する方向性を持ち続ける必要がある。

当年度は、一級課程の4年次生は4年次進級・卒業率が100%であった。3年次からの卒業に向けての意識づけができたことが要因と考えられる。本校全体としては、前年度とほぼ同様の定着率となった。学生の退学率を低くすることは、教育内容、指導体制、学校運営など、「在校生による学校の評価」が高いことの表れとして捉えるべきである。今後も、より充実した教育体制・学校運営を目指し継続的に努力するとともに、臨床心理士カウンセラーとも連携して、学生の学習意欲の向上対策を広い視野で検討することとする。

「読売式教育メソッド」は、「人間力」「専門力」「就職力」「資格取得力」「基礎学力」の五つの柱を明文化し、創立以来の伝統である「面倒見のよさ」「少人数主義」に代表される教育方針を、学生にどんな力が身につくかという観点からまとめ直したもので、本校の教育手法の特色と強みをわかりやすく打ち出したものである。今後は、本校が育成したい人材像をより明確にし、それをカリキュラムに反映する取組みを今後も継続的に取り組む必要がある。

学生募集に関しては、少子化が進む厳しい状況下での活動であったが、留学生の増加により昨年度を上回る結果となったが、日本人学生の増加は見られなかった。今後も女性を含めた日本人学生の募集強化に努めることが重要であり、次年度以降も継続的な課題である。